

第13期

昭和46年5月2日～昭和50年5月1日 [昭46.4.25選挙執行] 定数60名

この期の 主な出来事

- * 沖縄返還 (昭47.5)、日中国交正常化 (昭47.9)、第1次オイルショック (昭48.10)
- * 第11回冬季オリンピック大会開催(昭47.2)、政令指定都市へ移行し、7区役所開設(昭47.4)、ミュンヘン市と姉妹都市提携調印(昭47.8)

オリンピックをバネに大都市へ

この期、冬季オリンピックが開催され、指定都市へと移行しました。冬季スポーツ施設、幹線道路、地下鉄、新庁舎などオリンピック関連の施設が一挙に整いました。また、指定都市への移行により区制が敷かれ、区役所を中心とした区単位の市政が行われ、道路の舗装、下水道などの都市の基本的な設備も急速に整えられました。この4年間に札幌市は、近代的都市へと飛躍したと言えます。



新庁舎開庁式(昭46.11)
工期2年半、建築費総額36億4千万円、冬季オリンピックを目前に控えての落成でした。



昭和46年12月3日新議場での初議会
市庁舎建設構想時、議場は別棟にするべきなども話し合われましたが、最終的に市庁舎の17階、18階部分につくられました。

地域集中暖房・熱供給開始 (北7東2) (昭46.10)

各施設のボイラー室などからのばい煙で汚れた街に青空を取り戻すために進められました。



豊平峡ダム完成、湛水開始 (昭47.3)

給水能力の不足が予想され、市議会も建設促進の意見書を出すなど市を強力にバックアップし続けました。



第13期市議会議員

第14期

昭和50年5月2日～昭和54年5月1日 [昭50.4.13選挙執行] 定数64名

この期の 主な出来事

- * ロッキード事件発生 (昭51.2)、日中平和友好条約調印 (昭53.8)、第二次オイルショック (昭54.2)
- * 鉄道高架起工(函館本線と札幌線合計約9.2km) (昭53.11)、地下鉄南北線北24条～麻生間開通 (昭53.3)

市民注目の市長・市議会議員選挙

初めての任期を終えた板垣武四市長と北大名誉教授の川村琢氏が市長選に立候補しました。市長選の行方が同時に行われた知事選にも微妙に影響すると考えられたためあって、結果が目玉されましたが、約20万票の大差で板垣候補が当選し、引き続き2期目の市政を担当することになりました。同時に行われた市議会議員選挙も、前期と同じく保革伯仲の結果となりました。

小委員会

条例案立案などのため委員の一部をもって構成するのが小委員会です。昭和51年度の経済企業委員会で「大手スーパー進出反対要請方に関する請願」の審査のため、大型店対策の調査研究を行う小委員会を設置しました。



第14期市議会議員 (昭和50年5月7日初議会)



次戸下水処理場 (昭52.2 一部事務組合)
札幌市の北部地区から石狩市の花川地区を含む広域下水処理場です。

地下鉄東西線の開通 (昭51.6)

このとき琴似～白石間が開業し、昭和57年に白石～新札幌間、平成11年に宮の沢～琴似間が開業しました。



教育文化会館 (昭52.7第一期完成)

芸術文化活動の発表の場となるホール、学習や集会の場となる研修室などがあります。



札幌福祉作業所 (昭51.5シュリーの店第1号)
くつき修理、合い鏡制作などで市民に利用されています。